

「物性研究」10周年記念特集

本誌は今年4月で第20巻となり、刊行されて以来10年目を迎えます。その前身である「物性論研究」の時代から数えれば、約30年の長い歴史をもっています。今では個人会員220、機関会員220あり、その他商社を通しての販売を含めると約460の発行部数となっていて、この数はここ3年程ほとんど変わっていません。従って本誌が物性研究者の間に定着し、安定した学術雑誌(?)となっているように見えます。しかし編集部を経験からすると、「物性研究」は現在いろんな意味で曲り角に来ていることを感じます。その一つは最近の物価高、人件費高騰のため、人手のかかるオフセット印刷による本誌の印刷経費は急激に増加しており、座右にそなえるべき同人雑誌的価格を維持するのが困難になってきています。又、一つは雑誌、単行本、研究会等による科学情報の増加のため、本誌に対する読者、投稿者の希望が変りつつあることです。それは1~2年程前から、本誌への投稿論文がきわだって減ってきていることや、ニュース、掲示板欄の利用者が増してきていることにみられます。

このようなときの流れをもう少し正確につかみ、今後の編集方針に取り入れるために、今回の特集を企画しました。この特集は次の2部で構成されています。

第Ⅰ部；「物性論研究」及び「物性研究」編集者の回想記

第Ⅱ部；「物性研究」の読者及び投稿者の希望

第Ⅰ部は歴代の編集者(刊行を含む)の方々をお願いをし原稿をいただきました。執筆者の方々にお礼申し上げます。第Ⅱ部は編集部で読者に対するアンケートを作り、その結果をまとめたものです。アンケートの配布、回収には各地編集員の方々の大きな協力をいただきました。お礼申し上げます。

編 集 部